



「いずしる」から出かけよう！

文化財展示施設「伊豆の国歴史館 いずしる」の紹介カウントダウンは今回が最終回です。いずしるは、5月31日(日)によいよオープンします。

いずしるの展示の基本方針は、「伊豆の国市の歴史・文化のストーリーと魅力を発信—学び、体感を通じて過去と現代をつなぎ、フィールドへ、そして未来へ—」です。展示施設は学び、発見し、さらに市内各地の魅力的なフィールドを周遊する拠点としての役割も担っています。展示を見終えた後は、市内各地の史跡や文化財を巡り、歴史への理解をさらに深めてもらうよう、施設内には様々な工夫を凝らしています。

ガイドダンス展示室では、マップや映像で市内の史跡や文化財を紹介いたします。また、常設展示室では、スタ

ンプラリーをしながら、それぞれの興味に応じた各自の史跡めぐりコース「行ってみようマップ」を作成することが出来ます。

さらに、3階展望室の床面に貼られた航空写真は、史跡や文化財の位置を確認したり、周遊計画を立てることに役立つでしょう。展望室は全面ガラス張りです。テラスもあり、四季折々の景色とともに史跡等を遠望し、周遊への気分を盛り上げます。市内周遊を楽しむためのシェアサイクル、グルメ、温泉等の様々な情報は、1階の情報発信スペースで提供します。

いずしるは歴史・文化の展示施設に留まらず、市内の史跡・文化財を巡る拠点、ネットワークの核として、来館者をフィールドへ誘う施設を目指していきます。



▲市内中学生の大北横穴群フィールドワーク

歴史・文化課 055(949)8600

第46回 菅野 芳春 さん

伊豆の国市消防団長



団のためなら どこへでも

4月1日付で、伊豆の国市消防団の新団長に就任した菅野芳春さん。菅野さんは、昭和63年に旧大仁町消防団へ入団し、平成17年に地元分団の分団長を務め、その後、本部長や副団長などを歴任しながら、静岡県の大形ポンプ車操法の指導員総代として、県全域の団員に「消防団」の技術と魂を伝えてきました。

まさに消防団のエキスパートである菅野さんが、市の団員約300人を統率する立場になった今、改めて訴えたいのは、消防団活動の大切さ。「災害時には自衛隊や警察署・消防署が来てくれるから消防『団』は不要、という声がありますが、それは

間違いです。東日本大震災のような大災害でいち早く動けるのは、地域に住んでいる消防団員を置いて他にいません」。

そして菅野さんは、消防団員ではない市民、特に若者たちにこそ、その大切さを理解してほしいと言います。「団員は、皆さんと同じ地域に住む若者たちで、災害時に地域を守るように、日夜、真面目に訓練に励んでいることを知っていただきたい」。

普段は、土木建設会社を経営し、家庭や仲間を大切にしている菅野さん。約40年前、入団を快諾してくれた奥さん、続けることを許してくれた家族、長年の消防団活動の中で広がった仲間とのつながりが、今は何よりの宝物だそうです。

伊豆の国市以外に住んだことはないという菅野さんですが、「こんな人がのんびりとあなたかいまちはありません。私の大切な家族や仲間たちが住むこのまちを守る消防団の活動を理解してもらうためなら、私はどこへでも行きます。それが、団長の使命だと思っています」。

今年、市内外のあちこちで、消防団活動の大切さを力説する菅野団長が見られそうです。



消防団員募集



図書館だより

開館時間(共通) 9時～17時30分
中央図書館 ☎ 0558-76-5566
葦山図書館 ☎ 055-949-8605

5月のおはなし会
今月のテーマは「どうぶつ」
中央図書館 9日(土) 11時～
葦山図書館 23日(土) 11時～
くぬぎ会館こども広場 21日(木) 10時10分～
※事前申込不要



中央図書館のおはなし会 会場は2階視聴覚室です。

今月のおすすめ

一般 [中央]

地面師 vs. 地面師
—詐欺師たちの騙し合い—
森功/著 講談社

積水ハウス巨額詐欺事件の主犯が獄中で叫ぶ。「俺も騙された！」ドラマで話題となった事件を描いた前作の続編。残された謎に迫るノンフィクション。往復書簡も公開。

一般 [葦山]

こつこつ、オムレツ
太田忠司/著 ポプラ社

パーティシエとして前途洋々だった田代陶子は、運動障害のためお菓子作りができなくなる。そこで、知人のライターに誘われた「思い出のオムレツ」の取材に同行する。

5月の休館日
中央図書館：毎週月曜日、5日(火)、29日(金)
葦山図書館：毎週水曜日、7日(木)、29日(金)

国際交流員 アンのあのお



第32回 手芸がたぐ温かい輪
皆さん、サインバイノー！ いろいろな生きた日本語や、季節の行事、暮らしの知恵など、本物の日本文化をたくさん教えてもらっています。そして先日、ついに自分だけのハンドバッグが完成しました！一針、一針、皆さんと楽しくおしゃべりしながら縫い上げて、世界に一つしかない私だけの宝物です。これを持つたびに、教室での温かい時間を思い出し、とても幸せな気持ちになります。手芸がたぐいなくれたこの素敵な縁を、これからも大切にしていきたいです。



政策企画課 ☎ 055(948)1413